

編集後記

今、改めて都が問われようとしている。それは、間近に迫った平安京遷都一二〇〇年を意識してだけのことではない。研究そのものが、変容しようと胎動を開始しているともいえるべきか。そこには現代都市の終末の光景が重なってくる。

かつて、柳田民俗学をもって都市を論じた方法があった。それを否定する必要はない。むしろ、そのような研究方向の中から生まれた歪みをどのようにしたら解明できるのか。それこそが今日、我々の研究課題とされていることである。

ここに漸く出来あがった第三八号をみると、自ずから共通の関心が浮かび上がってくるのも現在の学界状況を反映するものと思われる。そのような見えざる研究への関心をどうことばにおいて表現しようが、我々はそこにこだわり続けねばならない。(廣川勝美)

執筆者紹介

- 駒木 敏……………本学教授
神尾登喜子……………本学嘱託講師
廣川 勝美……………本学教授
谷口 孝介……………本学嘱託講師
谷口 廣之……………阪南大学助教授・本学嘱託講師
廣田 收……………本学教授
勝見 昌浩……………本学大学院博士課程前期課程修了生
栗生 浩二……………本学大学院博士課程前期課程在学学生

同志社国文学 第三十八号

一九九三年三月十五日 印刷
一九九三年三月二十日 発行

編集 玉村文郎
廣川勝美

発行 同志社大学国文学会
(代表) 向井芳樹

京都市上京区今出川通烏丸東入
振替 京都九一二七三七

印刷所 共同印刷工業株式会社
京都市右京区西院久田町